



住宅事情

～スラム再建～

JETRO



インド チェンナイ

BOP層実態調査レポート

再建されたスラムの様子: Sadaramangala Area (バンガロール)



政府によるサドラマンガラ地区の再定住事業において、計800戸の住居が建設された。ここに住む人々は以前、旧バイアパナハリ地区で、飲料水、衛生、水道、電気および排水設備などに問題を抱えながら、100平方フィート(約9 m²)の小さな家に住んでいた。再定住が行われた現在、これらの問題のほとんどは解決され、人々からは生活が改善されたという声も聞かれる。一方、以前日雇い労働を行っていたが、職場が現在の住居と離れたため、通勤できるような環境ではなくなってしまい、小さな店を開き生計を立てる家族もいる。

この再定住場所は、バス停、鉄道の駅、また学校や病院から離れた場所に位置している。またエレベーターの無い集合住宅として住居が建設されたため、特に老人にとっては、階段の昇り降りに苦勞する生活を送っている。さらに、水道が個々の住宅まで整備されていないため、最上階に住む人が1階から水を汲み、運ばなければならないなどの問題を抱えている。



* 1インド・ルピー＝約1.4円(2012年6月末時点)

JETRO

Copy rights(C) 2012 JETRO. All rights reserved.



住宅事情

～スラム再建～

インド

チェンナイ

BOP層実態調査レポート

再建されたスラムの様子: Agrahara Dasara Halli (バンガロール)



住宅の総工費は350,000ルピーうち、居住者は総工費の10%を先に支払う必要がある。10,000ルピーを先払いし、残りを3回払いにすることが出来るが、この支払いが難しいケースもある。

一戸: 約300平方フィート (約28 m²)の広さに、
ベッドルーム1部屋、広間、
キッチン、独立したトイレ、
風呂場で構成されている。

800~1,500戸の
集合住宅として建設。しかし、
エレベーターを設置しないため、
特に最上階に住む住民は
苦勞を強いられる。



再建中の様子: Gangondanahalli Slum (バンガロール)



スラム居住者は、再定住事業が完了するまでシートハウスでの生活を強制される。その間、人々は風雨にさらされ、火事や、盗難の被害に遭うなどの問題に直面する。



JETRO

Copy rights(C) 2012 JETRO. All rights reserved.



住宅事情

～スラム再建～

インド

チェンナイ

BOP層実態調査レポート

再建されたスラムの様子: KANNAGI NAGAR (チェンナイ)



住宅は無料で提供されるが、住民は月々の管理費として250ルピーを政府に支払う。



チェンナイから20 kmのところであり、タミル・ナドゥ州のカンナギ ナガールは定住・再活性プログラムの一つが行われている。

100 エーカー(約40万㎡)に及ぶ敷地に合計 15,656戸の住居が建設された。コミュニティ開発を担うTNSCB(タミル・ナドゥ州スラム撤去局)が、コミュニティに社会インフラ 設備を提供し、学校なども併設され、また、ヴェトナム水路がカンナギ ナガールまで延設され一日200万リットルの水を供給している。TNSCBはまた、住民の収入改善のために、54店の小売店を併設し、住民に家賃を払わせて店の経営を任せている。保健衛生施設も建設され、都市交通公社によって公共交通も整備された。市バスがこの敷地内まで通っていて、チェンナイ中心地に働きに行く人々や学校に通う子供もただ同然のこの市バスを使ってダウンタウンに行く。



また、NGOによって30人の 男性と女性による セルフヘルプグループ(SHG)が結成され、コミュニティ開発プログラムにおける基礎的トレーニングを提供して女性への権限委譲の加速化、収入増加を支援している。ニーズの高い刺繍レーニング コースがSHGメンバーの女性に提供されている。



一戸:
約375平方フィート
(約35 m²)の広さに、
ベッドルーム1部屋、
広間、キッチン、独立した
トイレ、風呂場で構成
されている。



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。